

## 秋田県初記録のアカギカメムシ

The first record of *Cantao ocellatus* (Thunberg) from Akita Prefecture, Japan

藤中 由美\*  
Yumi Fujinaka

キーワード：アカギカメムシ 秋田県 初記録  
key words : *Cantao ocellatus*, Akita Prefecture, first record

### はじめに

アカギカメムシ *Cantao ocellatus* (Thunberg, 1784) は、カメムシ目キンカメムシ科の昆虫で、分布は本州(山口県)、四国、九州、屋久島、トカラ列島(諏訪瀬島)、奄美大島、徳之島、沖永良部島、沖縄本島、石垣島、西表島、台湾、朝鮮半島、中国、東洋区とされ(石川ほか, 2012)、本来は熱帯から亜熱帯に生息するカメムシである。

2020年8月に一般の方からアカギカメムシを採集したとの連絡を2件受けた。秋田県ではこれまでアカギカメムシが確認された記録はなく、県初記録となることから、当館へ持ち込まれたアカギカメムシについて報告する。

### 発見時の状況

採集者による発見時の状況は以下の通りである。

- I. 1♂(写真1)、男鹿市北浦、湯の尻漁港、  
16. VIII. 2020、宇佐美正氏 採集

2020年8月16日午後8時過ぎ、宇佐美氏がケンサキイカ漁のため男鹿市北浦にある湯の尻漁港から約3kmの海上に停泊していたところ、船上の集魚灯にアカギカメムシが20～30頭ほど群れるのを確認した。飛来の方は定まっておらず、ライトに向かってどこからか飛来し、中には海へ落下する個体も確認された。日付が変わった17日0時過ぎ、同氏が帰宅のため湯の尻漁港に駐車した自家用車に乗り込んだところ、本種が車内に入り込んだため捕獲した。身に着けていた衣類に付着していたものと思われる。

- II. 1♀(写真2)、南秋田郡大潟村、  
31. VIII. 2020、小川聡恵氏 採集

2020年8月31日、南秋田郡大潟村にある秋田県立大学フィールド教育センター敷地の牧草に付着していた1頭を発見し捕獲した。牧草は刈り取り後間もない時期で、草丈は<sup>くるぶし</sup>程度程度の牧草に付着していたとのことである。



写真1 男鹿市北浦産アカギカメムシ♂



写真2 南秋田郡大潟村産アカギカメムシ♀

\*秋田県立博物館

## おわりに

アカギカメムシは、前胸背側角に鋭い棘状の突起を持つ有棘型と持たない無棘型がある。棘の出現頻度は日長によるといわれ、インドネシアやマレーシアの熱帯域ではほとんどの個体が棘を備えるという(安永ほか, 1993)。当館に持ち込まれた個体はどちらも棘は認められなかった。

本州以北の日本海側では、2018年8月に島根県浜田市沖の海上で飛来が確認されている(皆木, 2019)。最北の記録は、2018年8月に北海道木古内町の津軽海峡に面した海沿いの集落で確認されている(堀, 2018)。

男鹿市と大潟村で捕獲された同時期に地元新聞社から、読者がアカギカメムシと思われる昆虫を発見したので確認してほしい、との依頼を2件受けている。2件とも正しく本種であり、能代市とにかほ市で1頭ずつ発見された個体とのことであつた。

本種はしばしば長距離を移動することがあり、南方定点気象観測船に飛来した記録もある(朝比奈他, 1970)。写真1, 写真2の個体の発生場所、発見された場所までの飛来ルート、目撃情報が8月に集中した理由等は不明である。秋田県のアカギカメムシについては情報収集を継続し、今後の調査課題としたい。

## 謝辞

本報告にあたり、宇佐美正氏(秋田市)と小川聡恵氏(大潟村)には採集したアカギカメムシを寄贈いただき、飛来情報をご提供いただいた。また、梅津一史氏(秋田県立博物館前職員)には本種についての貴重な情報をご提供いただいた。深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- 朝比奈正二郎・鶴岡保明(1970) 南方定点観測船に飛来した昆虫類第5報 1968年度の飛来昆虫類. 昆虫, 38(4): 318-330.
- 石川 忠・高井幹夫・安永智秀(2012) 日本原色カメムシ図鑑第3巻. 573pp., 全国農村教育協会.
- 堀 繁久(2018) 北海道から確認されたアカギカメムシ. 月間むし, (574): 3-4.
- 皆木宏明(2019) 島根県初となるアカギカメムシ(カメムシ目キンカメムシ科)の確認記録. 島根県立三瓶自然館研究報告17: 51-54.
- 安永智秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫(1993) 日本原色カメムシ図鑑. 380pp., 全国農村教育協会.